

# IPBESによる評価報告書の目的、成果、 今後の展開



2022年11月4日（金）

森林総合研究所主催ウェビナー  
IPBES総会第9回会合から見えて  
きた研究面でのインパクトと課題

尼子 直輝

IPBES侵略的外来種評価技術支援機関

[www.ipbes.net](http://www.ipbes.net)



## IPBESとは



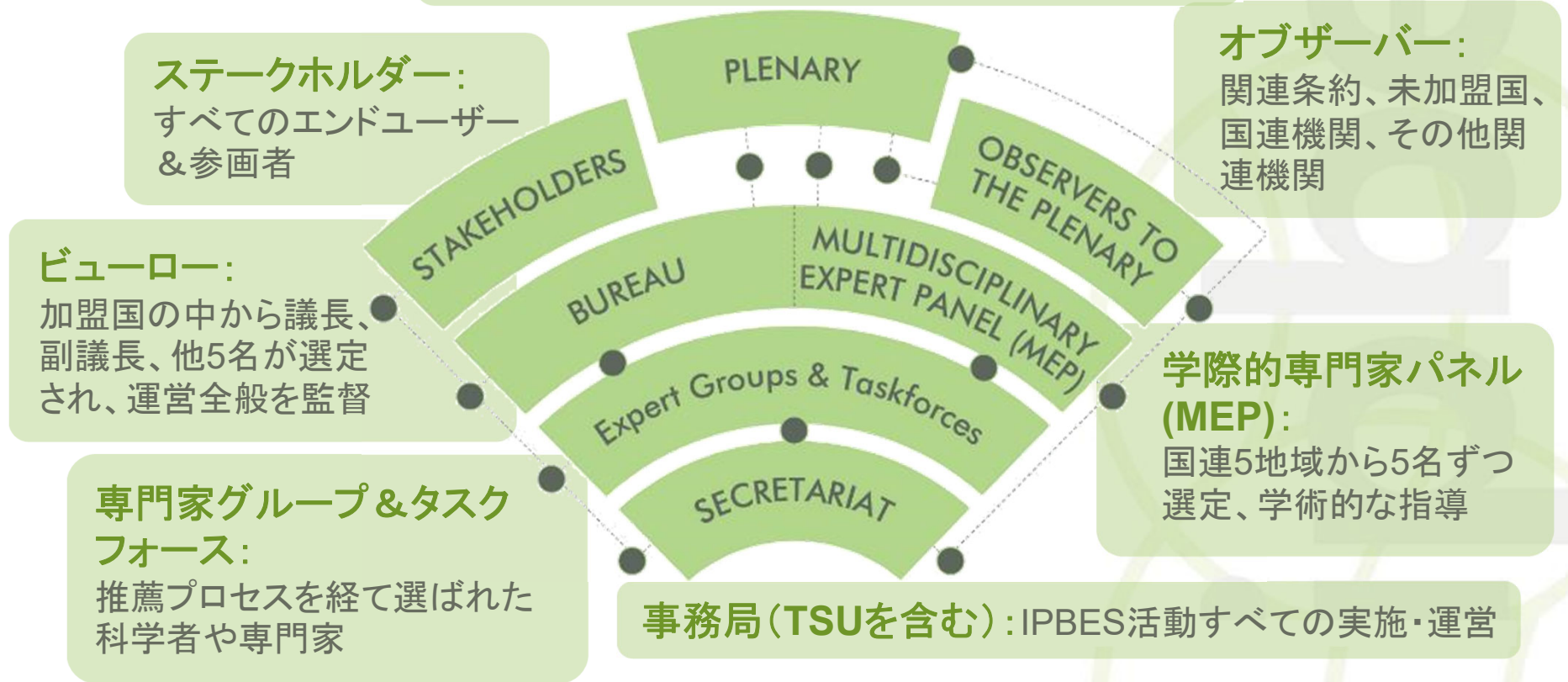
Intergovernmental Science-Policy Platform on  
Biodiversity and Ecosystem Services  
(生物多様性及び生態系サービスに関する  
政府間科学-政策プラットフォーム)

- **目的:** 生物多様性と生態系サービスに関する政策決定に有用な知見を提供
- **生物多様性版IPCC**とも呼ばれる
- 2012年に設立(事務局:ドイツ・ボン)
- 独立した**政府間組織**(140の加盟国)
- **4つの機能:** 科学的評価(アセスメント)※、政策立案支援、能力養成、知見生成

# IPBESの組織体制

Intergovernmental science-policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services

IPBES総会： 140 の加盟国が1～2年に1回開催



## IPBESの4つの機能

• 科学的評価 (アセスメント)	生物多様性と生態系サービスに関する地球規模、地域別、テーマ別アセスメントの実施
• 政策立案支援	政策立案に有用なツールや手法を特定し、その更なる開発と活用を促進
• 能力養成	科学と政策のインターフェースを改善するための能力養成ニーズの優先順位付けと支援の動員
• 知見生成	政策立案に有用な科学的知見を特定し、新たな知見の生成・研究活動を促進

## IPBESアセスメントの特徴①

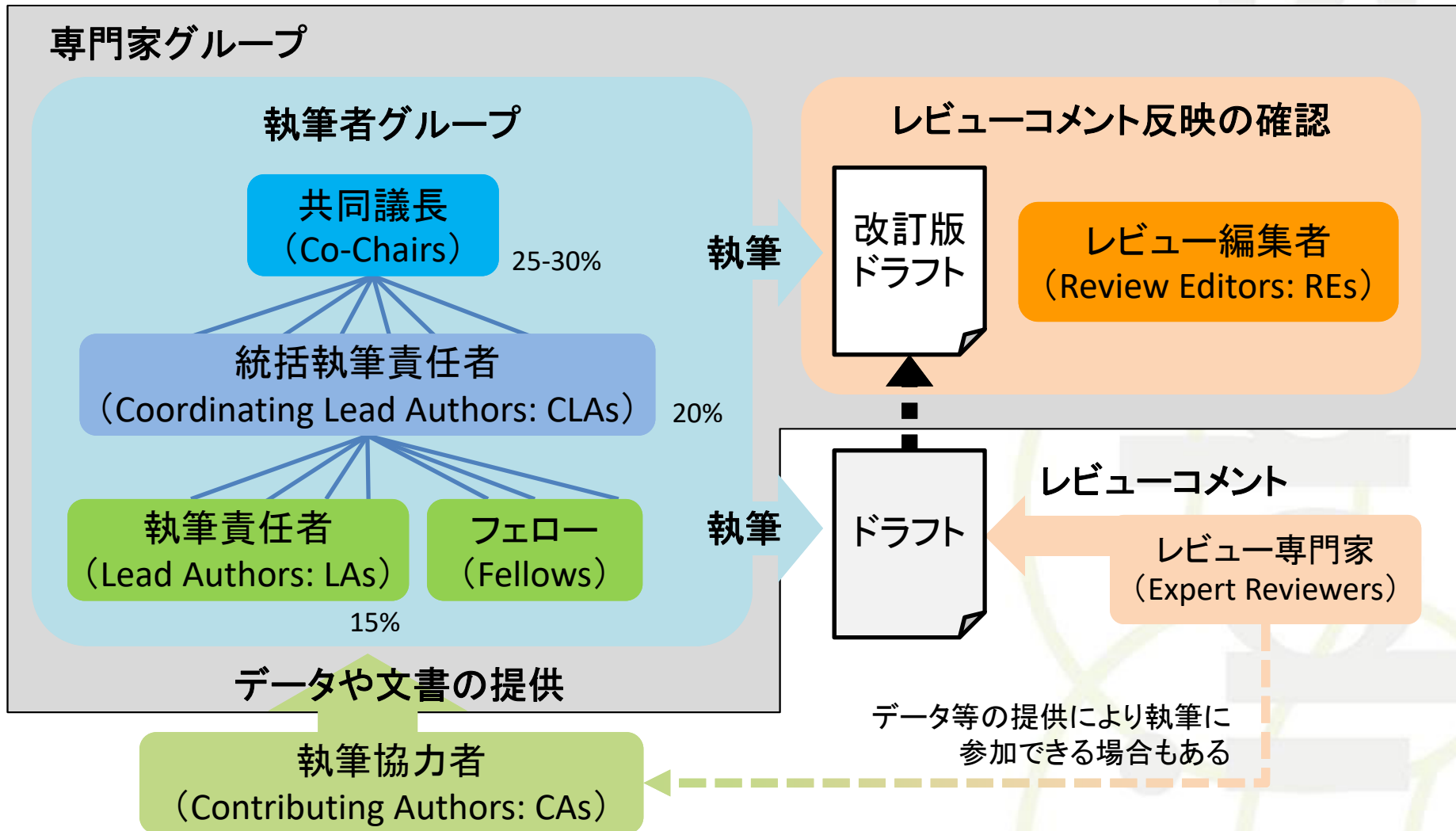
- 独立した**政府間組織**が実施
- **公募**(政府及び関連団体からの**推薦**)で選ばれた専門家による執筆
- 政策課題に対応したテーマ・内容で作成され、報告書の採択には**加盟国の合意**が必要
- **政策決定に有用 (policy-relevant)** な情報を提供するが、**政策規定的 (policy-prescriptive)** ではない

## IPBESアセスメントの特徴②

- アセスメントとは、特定のテーマに関する知見(学術論文やその他文献数千本)を分析、統合し、客観的に評価すること
- 文献レビューとの相違点:

	文献レビュー	アセスメント
ターゲット	科学者	政策決定者
執筆者	少人数	大人数、学際的、政府・組織による推薦
政策課題への対応	任意	必須
信頼度の明示	必須ではない	必須
ギャップの特定	好奇心・探究心からの追求	政策課題の解決に向けた実施
査読プロセス	少人数の同領域の専門家による匿名のレビュー	専門家、政府、多様なステークホルダーによるレビュー
一般向けの要約	必須ではない	必須
成果物	学術論文	報告書、政策決定者向け要約

# アセスメントに関する専門家の様々な役割



## 評価報告書の構成

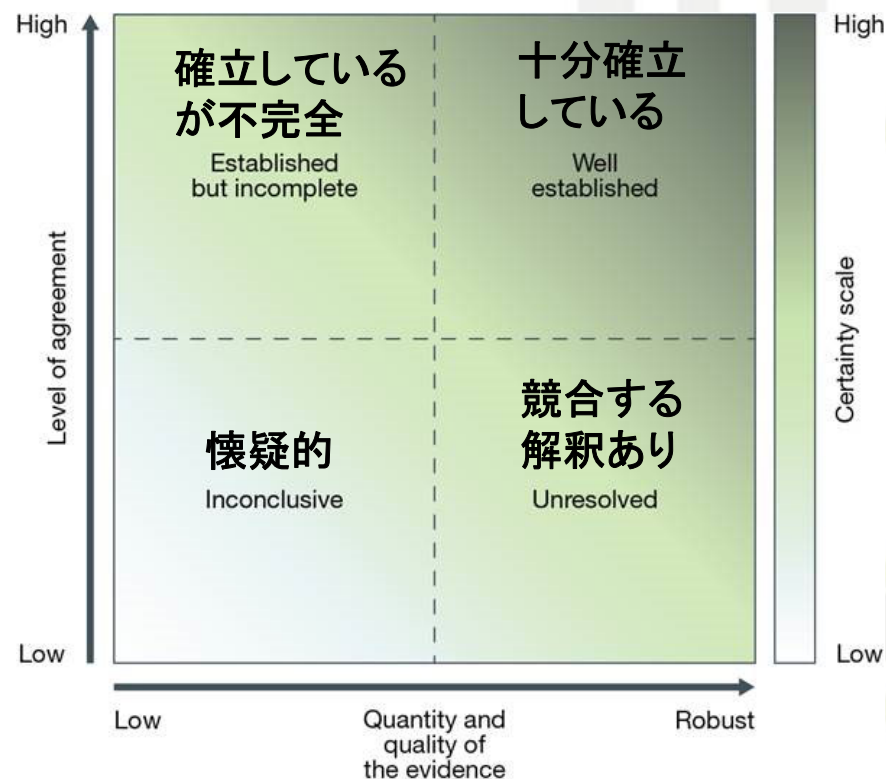
- I. フロントmatter(目次、序文、謝辞等)
- II. 政策決定者向け要約: Summary for policymakers (SPM)  
(キーメッセージ+バックグラウンド)
- III. 各章: Chapters (報告書本文: 6章構成が多い)
- IV. バックmatter(用語集、略語リスト、アセスメント専門家リスト、レビュー専門家リスト等)



## 評価報告書の特徴

- アセスメントのスコーピング報告書に対応する構成
- 各章のエグゼクティブ・サマリーから主要メッセージを統合した、**政策決定者向け要約(SPM)**が鍵となる
- それぞれの主要メッセージに信頼度 (Confidence level) を記載
- 主要メッセージの根拠をたどれるよう、関連する章番号が記載される

信頼度 (Confidence level) の示し方



## 評価報告書の承認・受理プロセス

- IPBES総会中に、ビューローメンバーが議長を務めるワーキンググループ(分科会)で交渉される
- 議長その他、壇上にはアセスメント共同議長とCLAのチームが座り、各国の質問に答える
- **SPM**は、一行ごとに交渉した後、全会一致のもと承認(Approve)される
- **各章**は本ワーキンググループでは検討しないが、SPMに沿った内容が記載されているという理解のもと受理(Accept)される



第6回IPBES総会の様子

## 完了した科学的評価(アセスメント)

- 2016年 ● 生物多様性・生態系サービスのシナリオ・モデル方法論に関する評価報告書
  - 花粉媒介・食料生産に関する評価報告書
  - 2018年 ● 生物多様性・生態系サービスに関する地域別評価報告書(アジア・オセアニア地域、アフリカ地域、ヨーロッパ・中央アジア地域、アメリカ地域)
  - 土地劣化と再生に関する評価報告書
  - 2019年 ● 生物多様性・生態系サービスに関する地球規模評価報告書
  - 2022年 ● 野生種の持続可能な利用に関する評価報告書
  - 自然とその恵みに関する多様な価値の概念化に関する方法論的評価報告書
-



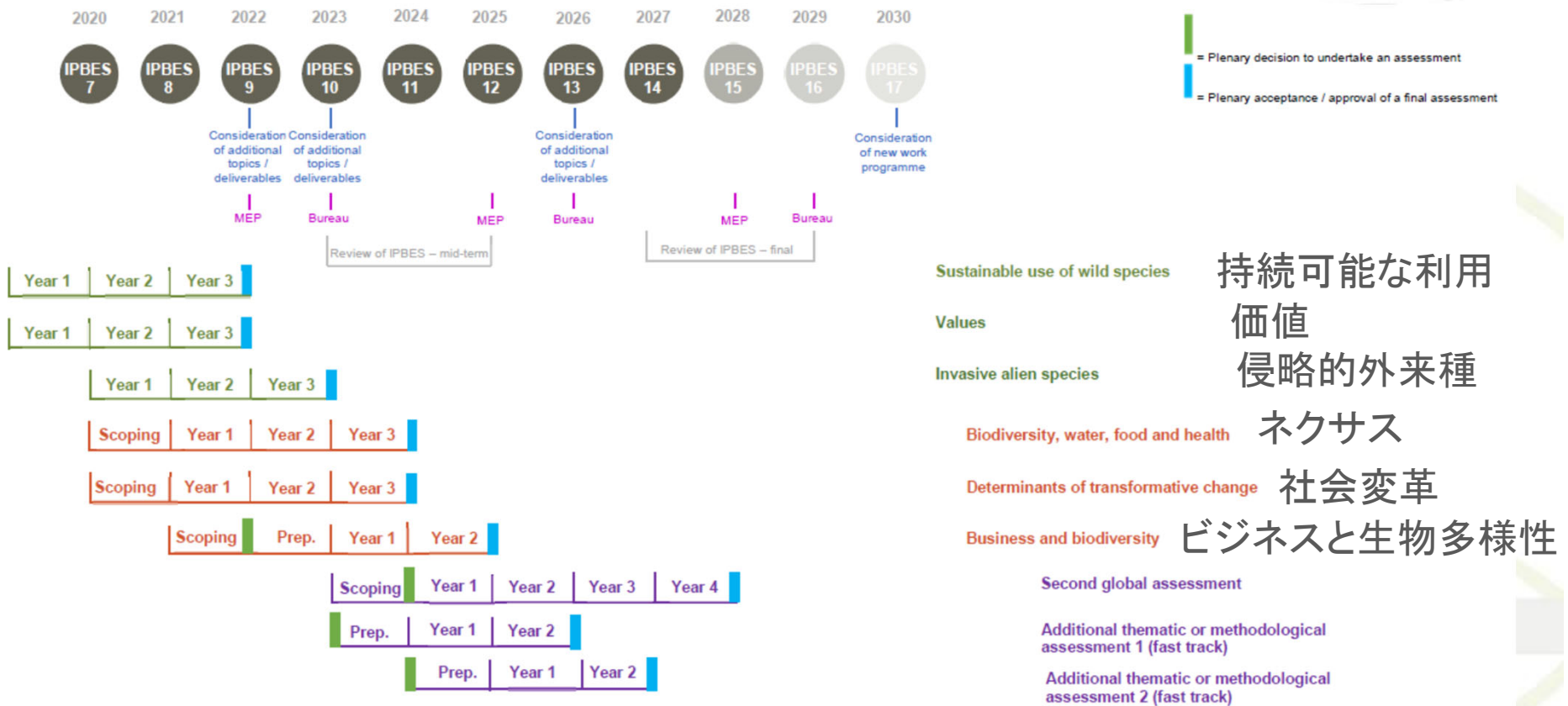
## アセスメント以外の報告書

2020年 ● 生物多様性と**パンデミック**に関するワークショップ報告書

2021年 ● **生物多様性と気候変動**に関するIPBES-IPCC合同ワークショップ報告書

---

# 第2期作業計画(2019~2030年)の当面のスケジュール (アセスメント)



持続可能な利用  
価値  
侵略的外来種  
ネクサス  
社会変革  
ビジネスと生物多様性

## 現在設置されている専門家グループとタスクフォース

※ カッコ内はTSUホスト機関

### 6つの専門家グループ(expert group)

- 持続可能な利用評価(フランス生物多様性研究財団等)
- 価値評価(メキシコ国立自治大学)
- 侵略的外来種評価(地球環境戦略研究機関(日本))
- 生物多様性・食料・水・健康のネクサス評価(IPBES事務局)
- 社会変革評価(モンペリエ大学(仏))
- ビジネスと生物多様性評価(未定)

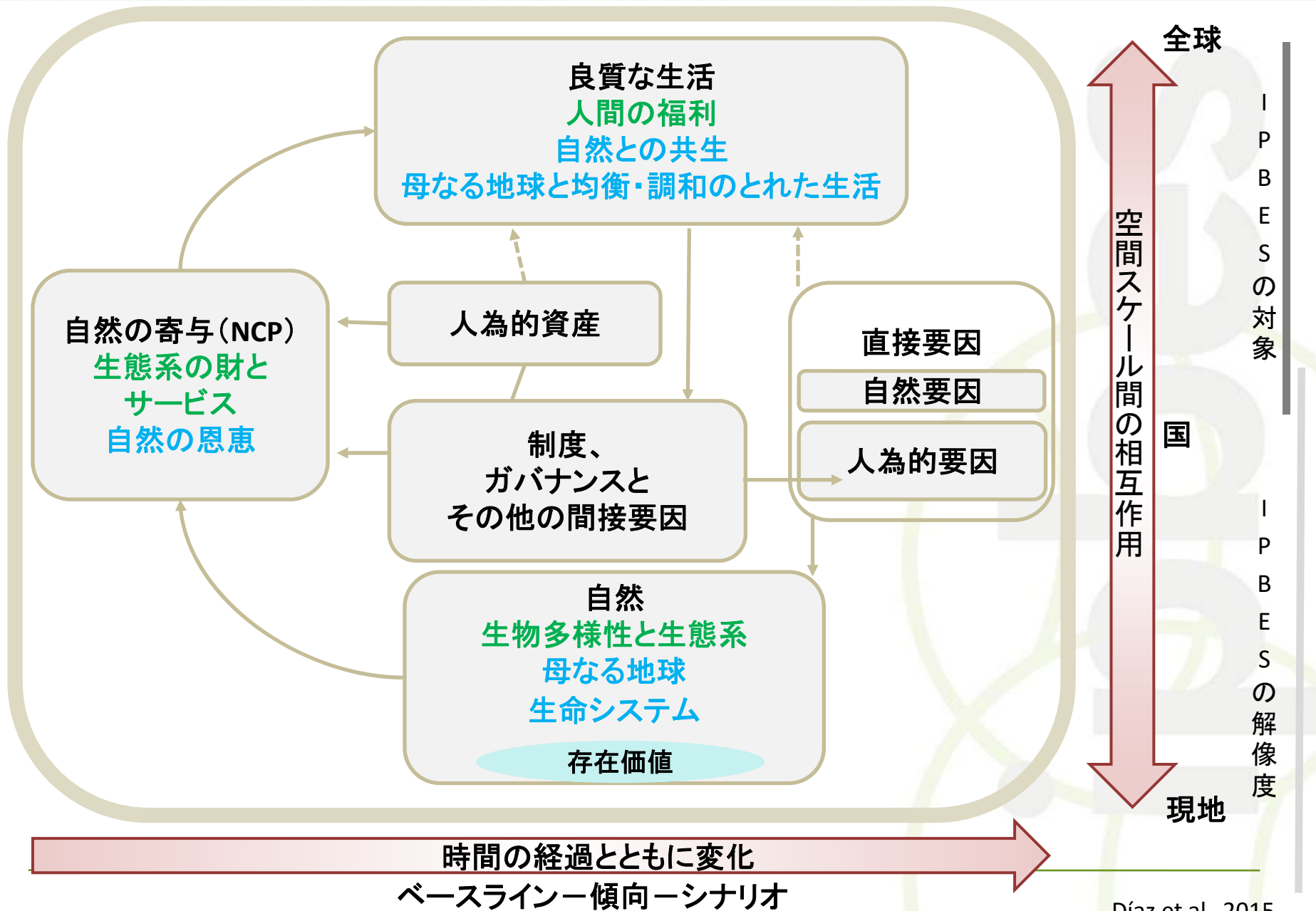
### 5つのタスクフォース(task force)

- 能力養成(ノルウェー環境庁)
- 知識・データ(ゼンケンベルク自然研究機構(独)+BiodivERsA(仏))
- 先住民・地域社会の知識体系(ユネスコ)
- シナリオ・モデル(オランダ環境評価庁)
- 政策支援ツール(国連環境計画 世界自然保全モニタリングセンター)

## 有効性に関するレビュー

- 2030年までのRolling Work ProgrammeのObjective 6「IPBESの有効性の向上」のため、以下のレビュー等が行われている。
  - 定期的なIPBESの有効性のレビュー
  - IPBES概念枠組(コンセプチュアル・フレームワーク)の利用とインパクトに係るレビュー
  - アセスメントのプロセスの有効性の向上

# IPBES概念枠組



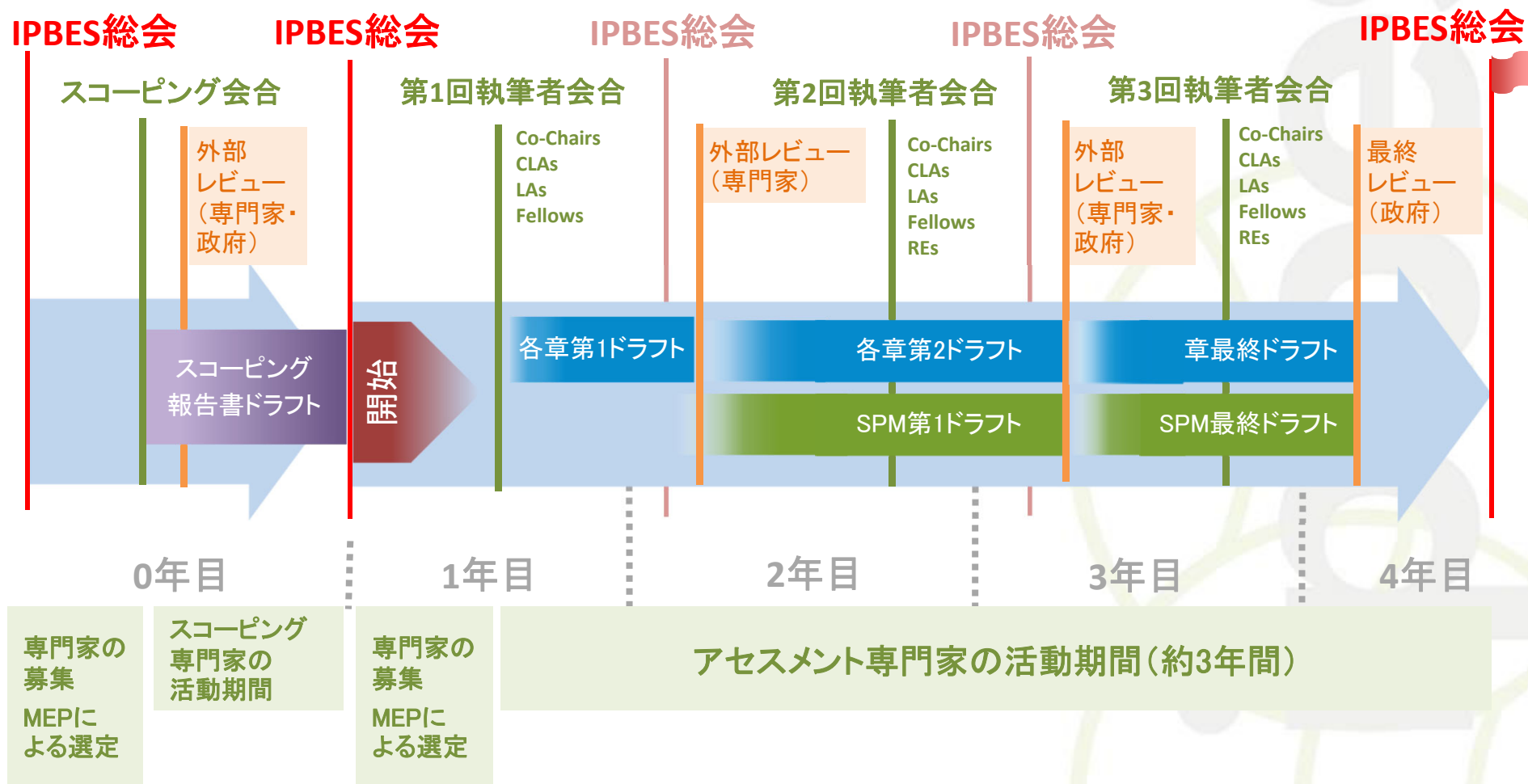




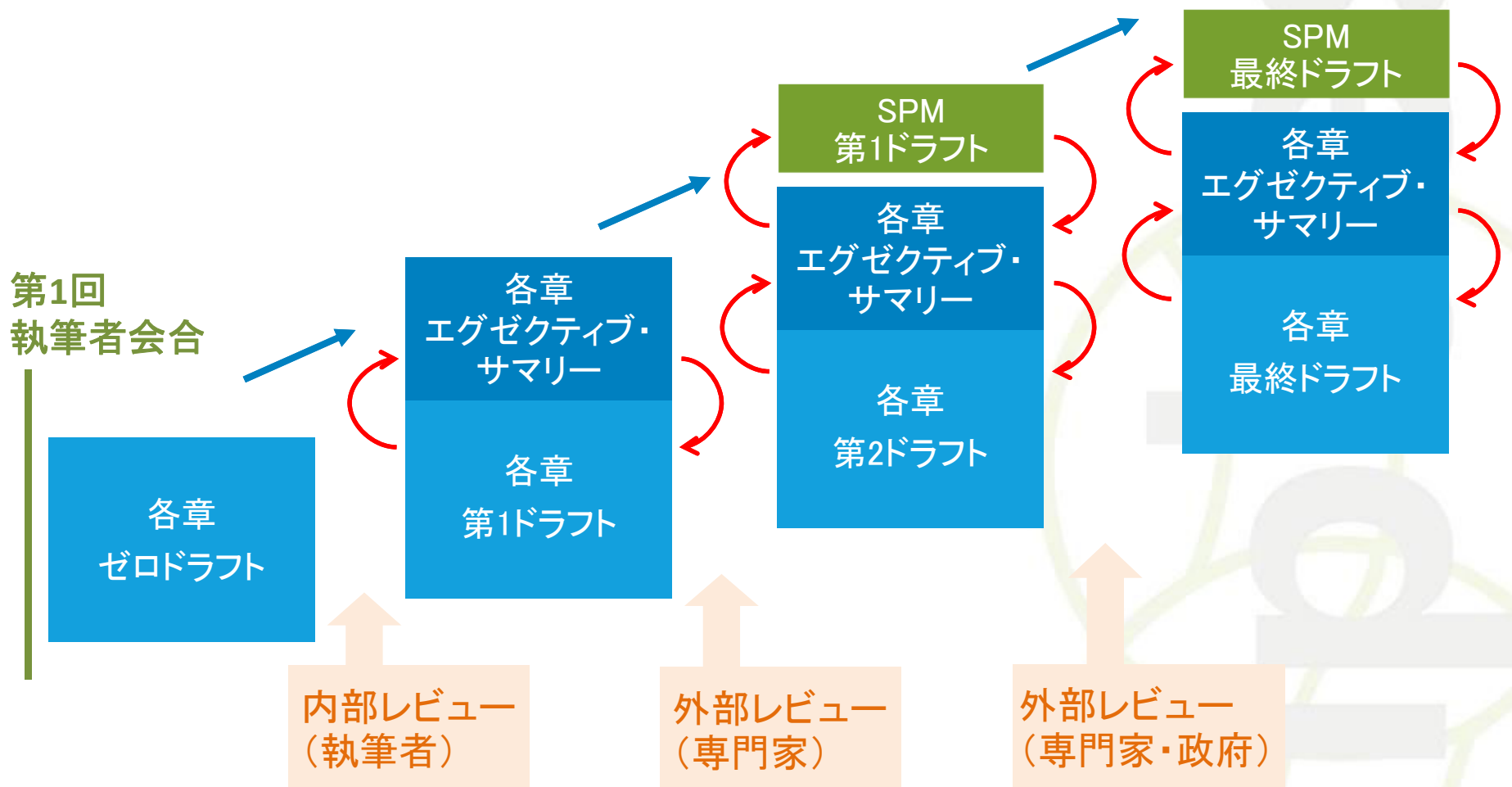
# IPBES アセスメント プロセスへの誘い



# アセスメントプロセス



# アセスメント報告書執筆作業工程



## アセスメント執筆者になるには

無償(ボランティア)で期待されること

共同議長: 25-30%の時間をアセスメントのコーディネーションに充てること

CLA: 20%の時間を担当章のコーディネーションに充てること

LA: 15%の時間を担当章の関連セクション・部分の執筆に充てること

加えて、各会合への参加も(参加費用も先進国の参加者は自費)

所属先の理解が必要